



農薬散布は、ドローンの免許を所持している30代のメンバー2名が担当



近隣の集落営農者を集め、ドローンの実演研修会を実施。ノウハウはすべて共有することになっている



交流会は広い格納庫がギュウギュウになるほどの大盛況。当日は朝から料理の仕込みや会場設営に皆大忙し



## ドローン&大型機械が 地域農業を支える光に

アグリサポート獅子目の皆さん。現場では常に笑いが絶えず、心から仕事を楽しんでいるのが分かる



豊かな自然と先進技術、そして深い愛情によって育てられた獅子目の米。甘みがあり冷めてもおいしいので、おにぎりにも最適。

「地域あつての集落営農」。だからこそ、アグリサポート獅子目のメンバーは地域との関わりをとても大切にしています。クリスマスイルミネーションやお正月の門松作りは約20年前から毎年実施。そして、さのぼり(田植えの後の祝宴)や収穫祭、定例会など、頻りに地域住民や関係機関の人々との交流会を開催しているのだそう。メンバー自ら腕を振るう大隅半島の新鮮な食材を使った料理も人気で、100名以上の参加者が集まることも。「地域はもちろん、地域外の人とも交流する

### 「楽しみ」を持続して 地域農業を守る

美しい田園風景が広がる鹿屋市獅子目町。山あいにあるこの小さな町で、米の集落営農に取り組んでいるのが、農事組合法人アグリサポート獅子目のメンバーです。集落営農とは、集落が共同で農業に取り組むこと。ここでは主に法人の組合員と、農作業を手伝う地元サポーター、30代から80代までの16名ほどが、協力して楽しく働いています。法人の立ち上げの礎となったのは、1995年に開始された「10年後の獅子目」についての話し合い活動。人手不足や働き手の高齢化が進む中、もっと農作業を

### 効率化することで 農業の未来を切り拓く

効率化しようと、翌年、県の補助事業を活用して大型の農業機械や格納庫を購入しました。さらに一枚あたりの面積が狭かった田畑を拡張したことで、大型の農業機械で一気に作業ができるようになり、2012年には大隅半島初の集落営農の法人化を果たしました。

また、2018年にはさらなる作業の効率化を目指し、農薬散布用のドローンを試験導入。2019年から本格的に使用しています。代表理事の持増さんは「時間短縮になるだけでなく、農薬を根元まで均一に散布できるため効果も上がり、農薬を減らすことにつながりました」とその効果に大きな手応えを感じています。

ことで情報交換ができるし、子どもや若者にも楽しんでもらえる。楽しみを持続することで地域と一体感が生まれ、農業を守ることに繋がると思うんです」と持増さんは話します。

法人化を果たした先輩たちの熱い思いがしっかりと受け継がれ、次の時代を見据えた取り組みが、一步一步着実に進んでいます。

他の農家に栽培方法を尋ねられるほどおいしい獅子目の米。山の湧水と新しい技術だけでなく、メンバーの地域への深い愛情が、獅子目の米をより一層おいしくしているのかもしれない。



今回の農家

米農家

取材協力

農事組合法人  
アグリサポート獅子目(鹿屋市)

もちます きくお  
持増 喜久夫さん

鹿屋市獅子目町でスマート  
農業を取り入れた集落営農  
で米作りを行っている。



### イベント

#### 農大祭

農業大学の学生が育てた野菜や花、肉やヨーグルトなどの加工品が数多く販売されます。

■日時  
令和元年12月7日(土) 10:00~14:00

■場所  
県立農業大学校  
日置市吹上町和田1800

■問い合わせ先  
農業大学校教務指導課  
TEL:099-245-1071